

# 現代都市類型

シンポジウム

## 創出

ここで現代都市類型を扱うのは、伝統都市論の表裏の問題としてである。一見、地球的規模で普遍的な存在にも見える21世紀初頭の現代都市を、歴史的な一類型として把握しようという試みである。仮説的に類型としての特質の断片を述べると、以下のようになろう。

① 19世紀第4四半期に、北アメリカ大陸の特に東海岸に形成される。これは、伝統都市の拘束がもつとも弱い環においてであり、純化・洗練された世界資本主義支配システムの中核として創出される。

② そこでは、都市の社会=空間構造を全一的に統合しうる主体が存立する。世界的規模で高度に発達しはじめた北米型大資本と、その道具としての連邦政府・都市自治体権力(暴力装置を伴う)の主導によって確立される。そこで横溢する論理は、あらゆる物や関係の徹底的な商品化である。

③ 摩天楼に象徴される中心部オフィス街の形成。そこは、金融を中心とする市場・流通の統合拠点であり、住居と乖離して垂直方向に巨大化を遂げ始める。内外の「交通」を媒介する鉄道や道路、水路を中核とする交通システム(やがては空港も)、自動車、エレベーター、電信情報システムが、対自的に確立される。また、文化・文明の道具化と、その象徴としての公園、大学、病院、博物館、動物園、スポーツ施設、物神崇拜(貨幣=神)機制などの都市内化が進行する。

④ 住民街区にみられる階層区分の非身分化、階級化。富豪層の「高級」住宅、中間市民層の小住宅街と、これらから疎外されたスラム街区が分立する。また少数者、被抑圧者、被疎外層、異端などの不断の流入・再生と、あらたな「包摂」・管理システムが成熟する。

これらをイメージ的に語るのではなく、事実の精緻な分析を踏まえて、帰納的に現代都市類型の特質を抽出する試みの端緒としたい。

\* \* \*

現代都市化のプロセスとして、以下の3つの位相を設定したい。

① 第1の位相(経済と社会)は第二次世界大戦後の民主主義と資本主義社会が生み出す旺盛な市場活動やテクノロジー信奉に象徴される「発展モデル型」の都市段階。

② 第2の位相(文化と生活)は、都市民が生み出す大衆文化と大量消費に支えられた都市生活に象徴される「更新モデル型」の都市段階。

③ 第3の位相(時代精神=あらゆる拘束からの自由)は、伝統や歴史、制度、因習、地域、場所、家族などから離陸した「自由モデル型」の都市段階である。

この3つの位相は分ちがたく結びつきながら、伝統的要素をいまだ色濃く残す近代都市を一挙に現代都市へと駆動させた。建築に即してみれば、近代建築や近代都市計画が西欧19世紀都市ではなく、むしろアメリカ新大陸やアジアなどの非西欧地域にまずは根を下ろしたという事実と照応している。

このシンポジウムでは3つの位相を念頭に置きながら、欧米・ロシア・日本における伝統都市の現代化過程をさまざまな角度から議論したい。

2007年11月10日(土) + 11日(日) 会場=東京大学工学部1号館15号教室

### ●プログラム

#### 第1日◆個別報告 | 14:00-17:30

報告 19世紀前半のニューヨークにおける住宅地開発—不動産、階級別居住、コミュニティ | 鈴木真歩(東京大学)

報告 総力戦と都市—1930年代防空演習にみる都市の組織化 | 土田宏成(神田外語大学)

報告 現代都市類型から見た20世紀モスクワ | 池田嘉郎(新潟国際情報大学)

#### 第2日◆個別報告+ラウンドテーブル | 10:00-17:00

報告 日本橋問屋街の都市不燃化構想—現代都市胎動期としての1950年代 | 初田香成(東京大学)

報告 都市空間を可視化する現代都市—近代京都における「歴史都市」の成立から考える | 中川理(京都工芸繊維大学)

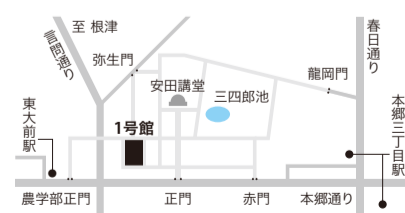
ラウンドテーブル 現代都市類型の創出

【司会】伊藤毅(東京大学)

【話題提供】伊藤毅+吉田伸之(東京大学)

【討論】伊藤毅+鈴木博之(東京大学)+増谷英樹(獨協大学)+吉田伸之

[主催] 都市史研究会+ぐるーぶ・とらっと3(科研・基盤研究S:16-19世紀、伝統都市の分節的な社会=空間構造に関する比較類型論的研究+科研・基盤研究A:伝統都市アイデアの生成と変容に関する比較類型論的研究) [参加費] 500円(資料代) [お問い合わせ先] 〒113-8656 文京区本郷7-3-1 東京大学工学部1号館3階伊藤毅研究室 電話:03-5841-7459 ファクシミリ:03-5841-8513



東京大学工学部1号館

東京メトロ南北線東大前駅より徒歩5分、千代田線根津駅より徒歩10分、丸ノ内線・都営大江戸線本郷三丁目駅より徒歩15分